

Environmental activity report

# 環境活動報告書

# 2018



# 目 次

● 環境活動報告書を読まれるみなさまへ	2
● 環境理念と行動規範	3
● 環境方針	4
● 環境マネジメントシステム	5
● 環境マネジメントの取り組み	6
● 環境法規の遵守状況	9
● 環境基金委員会報告	10
● リサイクル報告(2018年度回収量の報告)	11
● 組合員の環境活動トピックス	12
● 地球温暖化防止の取り組みと結果	14
● 店舗事業の電気使用量の取り組み	15
● 店舗事業の電力使用量削減結果	16
● 燃料使用量削減の取り組みと結果報告	18
● 太陽光発電レポート	19



## 環境活動報告書を読まれるみなさまへ

毎年この時期、コープおおいたでは環境活動についての1年間の振り返りとその報告を1冊にまとめて発行してきました。生協という大きな消費者組織として、求められる社会的責任をどう果たし、前進させたかについて、関係する多くの組合員はもとより、行政・諸団体のみなさま、お取引先さま、場合によっては現在直接の関わりに関係なくても、コープおおいたに興味を持っていただいた方々に対して県下1/3世帯を組織することになった今、果たさなければならぬことを報告することが義務であると考えているからです。そして、その積み重ねが現在世界の各地で起こっている異常な現象を抑制し、持続可能な将来の一助になるものと信じています。



専務理事 江藤 隆康

さて、昨年第68回日本生協連通常総会において、「コープSDGs行動宣言」を採択し、SDGs「持続可能な17の開発目標」に貢献することをコミットしました。とりわけ7つの取り組み(下記図参照)を通じて全世界の人々とともに目標の実現に向けて取り組みをすすめていくこととしています。微力ながら、わたしたちもその一員として、個々の取り組みを前進させていかなければと思っています。



地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します。

現在、コープおおいたでは「2030年ビジョン」の策定をすすめています。未来に向けてわたしたちはどういう存在でありたいのか、わたしたちに求められることはどのように変化していくのであろうか、まさに組織運営と地域貢献の領域において、前述の行動宣言推進は切り離せない事項であろうと思っています。昨年も触れましたが、「2030年目標：CO<sub>2</sub>排出総量を2013年比40%削減する」「2050年目標：CO<sub>2</sub>排出総量を2013年比90%削減する」に遅れないための施策は、持続可能な社会づくりにおいて欠かせないパーツではないでしょうか。来年のこの時期には、それらを具体的に見える化し、みなさまにご報告できるよう準備をすすめていきます。

おわりになりますが、事業分野の成長はまだまだ十分ではありませんが、組合員数は着実に伸長を続けています。県内の半数世帯を組織することを意識し、それにふさわしい活動はどうあるべきか、十分な評価をいただけるのかを常に考え、行動する組織づくりをすすめてまいります。ご一読いただき、叱咤激励も含めて忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

今後とも引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



## 環境理念と行動規範

生活協同組合コープおおいたは、事業者として求められる社会的責任を果たし、生活協同組合として地域社会におけるアクションリーダーの役割を果たしていくことを基本理念として掲げ、下記に上げる行動規範(考えたり、行動したりする時の基準)に沿って行動します。

### ◇責任性の視点

国や行政監督省庁の指針や指導・指摘事項に沿った責任を果たす姿勢

### ◇規律性の視点

関連法令、条例を遵守する姿勢

### ◇積極性の視点

地域社会の中で先頭に立って積極的に取り組む姿勢

### ◇先進性の視点

地域社会の中で未だ事例のない先進的な取り組みに果敢に取り組む姿勢

### ◇公開性の視点

行動計画、実際に取り組んだ行動や結果を内外へ積極的に広報する姿勢責任性、規律性の視点は一事業者として求められる社会的責任を果たしていくコンプライアンス(法令遵守)の考え方です。厳しい事業環境下にあっても、社会的責任は果たしていく決意を表しています。

積極性、先進性の視点は、生活協同組合として地域社会におけるアクションリーダーの役割を果たしていくことを表しています。地域社会における消費者団体として要求事項を超える取り組みを行ない「生協に入ってよかった」、「生協のある町に住んでいてよかった」と評価していただける組織として在り続けたいとの願いを込めています。

公開性の視点は、時々の経営状況報告はもちろん、「環境保全活動に関わる要求事項に関する情報発信」、「それに伴う活動計画」、「活動した内容と評価について」、関わる全ての人が、同じ目線で同じ理解ができている状態を作ることが必要だと考えます。内外広報の実施に関する誓約の意思と、生活協同組合コープおおいた全てのステークホルダーのみなさまへ、定期的に活動の報告をさせていただき決意を表明しています。



## 環境方針

地域の中で、事業活動を行なう組織として求められる社会的責任を果たしていく上で、生活協同組合コープおおいたは、環境理念、行動規範に沿い、以下に掲げる環境活動方針に則って行動しています。

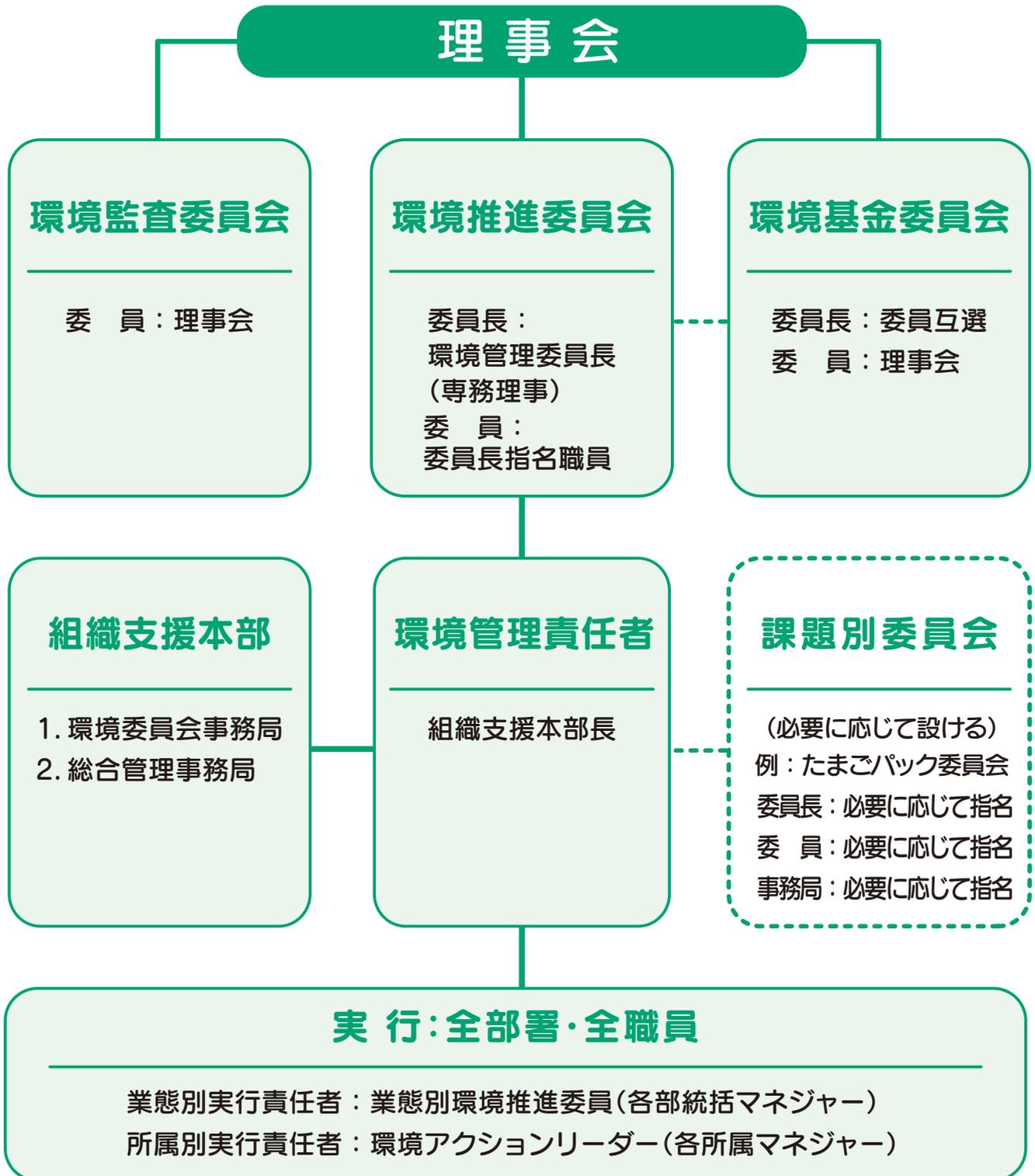
### ～生活協同組合コープおおいた 事業活動分野環境方針～

1. 生活協同組合コープおおいたは、環境問題を生協運動の根源的課題として位置づけ、その行なう事業活動、取り扱う商品、行なうサービスにより発生する環境影響の大きな項目について、環境に関わる法令、条例、受け入れを決めたその他の要求事項を遵守し、技術的、経済的に可能な範囲で、環境の保全活動を自ら設定し、率先して取り組みを実行します。
2. 設定した環境保全活動目標は、環境マネジメントシステムに従って確実に実行していき、定期的に検証と見直しを行ない、最善を尽くします。
3. 以下の事項を、環境保全活動の柱に置き、活動をしていきます。
  - ① 組合員および事業連合や取引先の方と協同して、産直商品やコープ商品を中心に、より環境負荷が少なく、安心・安全な商品づくりを進めながら、環境に配慮したもののうち、年度毎に重点商品を設定し、普及します。
  - ② 各事業所におけるエネルギー（電力、ガス、車両燃料など）使用効率を高めて、供給高1億円あたりのCO<sub>2</sub>排出量を、定期的に実測把握・検証し、抑制します。
  - ③ 容器包装及び梱包材の削減と再資源化を推進します。
  - ④ 紙の使用量を削減します。
  - ⑤ エコドライブ（急発進、急加減速、急なハンドル操作をしないなど）を実践し、業務車両の燃費向上とともに廃棄ガスに含まれる有害物質の排出を抑制します。
  - ⑥ 店舗の商品ロスなどの廃棄物削減と再資源化を推進します。
  - ⑦ 環境配慮型の施設づくりを推進します。

以上の活動を進めるために、学習の場や会議などを通じて、すべての職員に対する教育・啓発を積極的に行ないます。この環境方針はコープおおいた内外に公表します。

# 環境マネジメントシステム

事業活動分野の環境活動計画の立案と実行、検証について以下の組織体制に基づき、環境管理委員長である専務理事直轄の環境推進委員会を中心に進めています。諸活動の検証は、環境監査委員会が事務所監査等を実施し、年に一度、理事会への報告書を含めて活動の評価と、改善や指摘をいただいています。





# 環境マネジメントの取り組み

## 環境推進委員会の報告

環境推進委員会を定期開催し、環境マネジメントの取り組みを推進しました。

事業活動分野の推進指標は、2017年度に引き続き「供給高あたりのCO<sub>2</sub>排出量」に設定し、「環境に配慮した事業活動」を行なうための施策検討～実行～振り返り～新たな計画と進めてまいりました。

## 2030環境目標設定に向けた取り組み

2017年5月、「日本生活協同組合連合会 2030環境目標検討委員会」は、地球の持続可能性を揺るがす気候変動の脅威に対し、SDGsやパリ協定など国際的な枠組みをふまえた温暖化対策の方向性と、生協が目指すべき削減水準について、以下の「提言」にまとめました。

### 2030環境目標検討委員会の提言

#### ①自生協で2030年温室効果ガス削減計画を策定し実践を開始すること

- ・2030年:CO<sub>2</sub>排出総量を基準年比40%削減する(基準年2013年)
  - ・2050年:CO<sub>2</sub>排出総量を基準年比90%削減する(基準年2013年)
- 】 目指すべき  
水準・ベクトル

#### ②省エネ対策を徹底し、設備や車両を環境の視点から見直していくこと

- ・省エネ機器の導入や改修を経営計画の中に織り込み、新規省エネ技術の積極的な導入をしていく。
- ・宅配・物流車両を次世代車両へ切り替える。生協の連帯による取り組みが必要。

#### ③再生可能エネルギーの電源開発に生協全体で取り組むこと

- ・原発に頼らない社会と脱炭素社会のため、再生可能エネルギー10億kWh(設備容量500MW相当)の電源開発に取り組む。

#### ④組合員とともに、学び、共感を広げていくこと

- ・気候変動問題の現状と、私たちのくらしや事業のプロセスが環境や社会に及ぼす影響を認識する。

#### ⑤地域とともに持続可能な社会をつくる動きを作り出していくこと

- ・自治体との連携でエネルギー地産地消を。協同組合、NPO、大学や研究機関などとの連携を作る。

コープおおいたでも、2030環境目標設定のために、「現状分析」～「BAU推計等による削減必要量の把握」～「削減可能対策の検討」をすすめてきました。

2019年度に、「2030環境行動計画の策定」を行ない、目標達成に向け取り組んでいきます。



## 環境監査委員会を実施しました。

### ■環境監査方針

- ①引き紐等、エコ事業所の推進状況の確認
- ②電力使用量・使用料金の増加事業所の要因と対策提起
- ③省エネチューニング実施の把握

### ■監査

(通常監査事業所) 3事業所

(省エネチューニング) 実施日:2018年5月11日(金) 於)コープ別府店

- ①省エネチューニングの実査 (株)ECOT・疋田電気管理事務所による作業内容実見
- ②(株)ECOT 桑原氏による報告

<所見>

⇒ 17年度の環境活動報告を受けました。

⇒ 省エネ効果が出ているので、引き続き、削減に向けて推進してほしいです。

(環境基金監査)

- ①17年度環境基金決算報告書の確認

《主な報告》

廣瀬本部長より別紙に基づいて報告がありました。

- ①2017年度:環境基金委員会活動報告
- ②2017年度:環境基金決算
- ③2018年度:環境基金委員会 方針・予算

<所見>

⇒ 環境基金決算等を確認しました。

⇒ 中津にベッコウトンボの観察会をしている団体が報道されていました。メーリングリストだけでなく、例えば、そのような団体にも声をかけてみてはいかがでしょうか。

### ■監査結果報告

(事業所監査)

【日出センター】 実施日:2018年9月3日(月)

- 無人のレンジのコンセントが入ったままでしたので、待機電力に対して意識を高めていくとともに、更に改善されると思います。
- 全体的には、よく整頓されていて好感が持てました。引き紐に関しては、よく徹底されていたと思います。昨年も指摘されていた使用していない電気製品のコンセントをぬくことや便座のふたを閉めていないことは、今後、心掛けていただくと良いと思います。



環境監査実施内容・結果について報告しました  
(日出センター)



【コープ南大分】 実施日:2018年11月13日(火)

- 消火栓の周囲に段ボールやカートが置かれていて緊急時に対応できない可能性があるので改善が必要です。
- 休憩室のタコ足配線を工夫した方が良いでしょう。スイッチはタップ付などの利用にするか、未使用時は抜く習慣づけをして下さい。

【コープ別府店】 実施日:2019年1月22日(火)

- 全体的に、よく整理整頓されていました。
- エアコンもOFFになっているところが多く、節電もよくされていました。
- 「手の洗い方」の掲示など、衛生面に配慮されている様子もみられ、好感が持てました。



産業医巡回と環境監査実施の様子(コープ別府店)

■環境会議監査

(環境推進委員会) 実施日:2019年3月11日(月)

- 幅広く情報をとり、(株)ECOTの協力を得ながら、電力や燃料等の削減に取り組んでいます。
- 引き続き継続して、安価な電力という視点だけでなく、CO<sub>2</sub>の排出削減目標に向けた対策を期待します。

■総評所見

- ①整理整頓、引き紐活動、裏紙使用等々、細かいところにも目を配りながら省エネ事業所運営に取り組んでいます。
- ②今後、ますます環境に対する意識が高まります。環境への配慮や取り組みが厳しい部分にも、できる限り取り組んで、さらなる成果を目指してください。
- ③便座の温度設定やふた閉めなど、前年度の指摘事項が改善されず、今年度も目に付くところがありました。同じ指摘を繰り返されないように、来年度は最重点課題として取り組んでください。

## 環境法規の遵守状況

法規制は、環境マネジメントにおいて最も基本的な要素であり、その遵守に努めています。関連する主な環境関連法規及び規定は次の通りです。尚、2018年度において遵守事項についての対応は、問題なく実施することができました。

法律・条例名	遵守事項	実施内容
消防法	防火管理者の設置。	防火管理者の選任及び変更届を提出しました。 設置部署の定期点検を実施しました。
水質汚濁防止法	店舗の惣菜フライヤーの使用 済み油の措置。	油の流出事故時の措置として関係者へ 管理手順の教育実施をしました。
浄化槽法	浄化槽の定期水質検査、保守 点検、清掃の実施。	保守点検の定期実施と年1回の法定検 査を実施しました。
廃棄物の処理及び 清掃に関する法律 (廃棄物処理法)	廃棄物の排出を抑制し、廃棄 物を適正に分別・保管・収集・ 運搬・再生・処分する。	産業廃棄物処理委託業者の許可証有効 期限を点検・確認しました。 マニフェスト(産業廃棄物管理票)の発 行を確認し、行政への定期報告書を6月 までに提出しました。
食品リサイクル法	食品廃棄物の発生抑制を優 先し、「発生抑制」「再生利用」 「熱回収」「減量」を促進。 45%の再生利用を実施。	8店舗で排出された生ゴミの堆肥化を 実施し、リサイクル堆肥を使用した野菜 の生産と店舗での販売を行ないました。 行政へ定期報告書を6月までに提出し ました。
容器包装 リサイクル法	容器包装廃棄物の排出の抑 制、分別収集および再商品化 を促進。	(財)日本容器包装リサイクル協会と再 商品化委託契約を結び再商品化義務を 履行しています。 行政への定期報告書を6月までに提出 しました。
エネルギーの使用の 合理化に関する法律 (省エネルギー法)	〈工場等〉特定事業者認定に よる定期報告書の提出。	経済産業局等へ定期報告書・中長期計 画書を7月までに提出しました。
	〈輸 送〉特定輸送事業者認 定による定期報告書の提出。	九州陸運局への定期報告書を6月まで に提出しました。



# 環境基金委員会報告

レジ袋削減の益金を「環境基金」として毎年積み立てています。2018年度も、環境基金委員会で基金の用途について協議し、環境に関することに有効活用していくことを決めました。

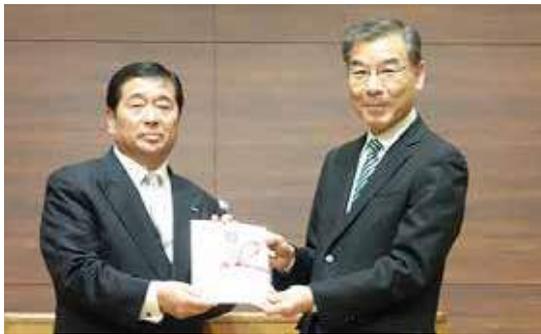
「環境基金」は地域で環境活動を熱心に行なっている団体やグループへの助成(コープおおいた環境基金助成金)、県内の認可幼稚園・保育園へ環境に関する絵本の寄贈、大分県への寄付(大分県地域環境保全基金寄付金)、里山保全活動をしている大学への助成(里山保全等環境保護活動研究助成金)に有効活用しました。



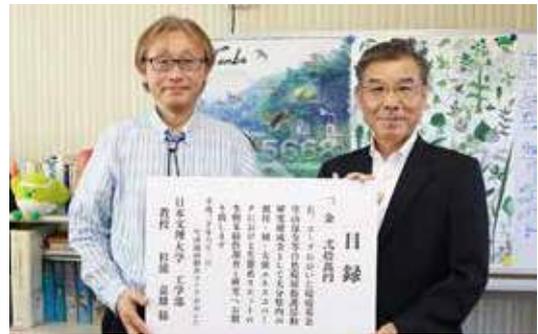
大分県地域環境保全基金寄付金贈呈



大分県私立幼稚園連合会へ絵本を贈呈



大分県保育連合会へ絵本を贈呈



日本文理大学へ里山保全活動助成金贈呈

## ～2018年度 コープおおいた環境基金決算報告～

収入の部	
前期繰越金	9,345,629
レジ袋益金	1,511,477
収入の部合計	10,857,106

支出の部	
障がい者施設リサイクル作業料	397,210
大分県地域環境保全基金寄付	115,000
絵本の寄付	545,914
里山保全等環境活動研究助成金	200,756
環境基金助成金	1,204,860
交通費等	4,788
会議費等	15,390
委託料(日当・残高証明手数料等)	9,324
予備費	—
支出の部合計	2,493,242
次期繰越予定額	8,363,864

# リサイクル報告(2018年度回収量の報告)

## コープおおいた 環境活動

「一人ひとりの一歩は小さいけれど、みんなの力を合わせれば大きくなる」を合言葉に、2018年度も多くの組合員の皆さんに、コープおおいたの様々な環境活動にご協力いただきました。



### 2018年度 回収量の報告

#### 牛乳パックとカタログの回収量

**約89万6,326kg**  
(前年比 101.40%)

回収量の7割がトイレトーパーやティッシュの実質の原料となります。  
コアノンロール130m(S) 1個276gで換算。  
約227万3,290ロールが再生されました。

#### タマゴパックの回収量 (共同購入・個配対象)

**約4,849kg**  
(約24万2,450枚)(前年比 142.70%)

1パック約20gとして換算。  
タマゴパックとして再生されました。  
中にはリサイクル対象外の素材も含まれていましたが、それらはペレット化され繊維材料となりました。

#### プラスチックトレーの回収量 (店舗のみ)

**約2,651kg**  
(約53万200枚)(前年比 108.42%)

枚数は1枚平均5gとして換算。  
トレー1tあたりに原油2,400ℓ  
(原料+製造するためのエネルギー)が使用されています。

#### マイバッグ持参数

**440万596人**  
(前年比 97.86%)

マイバッグ持参率87.66%。  
レジ袋1枚に原油10ml(原料+製造エネルギー用)が使用されています。

#### ペットボトルキャップの回収量

**約2,461kg**  
(約98万個)(前年比 155.66%)

回収したペットボトルキャップは、回収業者を通じてPET原料としてリサイクルされます。

#### 集品袋・カタログセット袋回収量

**約6,014kg**  
(約200万2,662枚)(前年比 130.03%)

1枚平均3g(333枚/1kg)として換算。  
リサイクルポリ袋として再生されています。

#### 廃油回収量 (店舗のみ)

**約5万1,000ℓ**  
(前年比 104.16%)

ドラム缶に換算すると、約255本分に相当。バイオディーゼル燃料として生まれ変わっています。  
※コープおおいたでは燃料として使用せず、廃油の回収のみ行なっています。



※コープ大分駅店はテナント出店のため、リサイクル回収BOXの設置、廃油の回収ができず対象外となります。

	回収量	単位	係数	単位	t-CO <sub>2</sub>
牛乳パック・カタログ	896,326	kg	0.036500	CO <sub>2</sub> /t	32.72
レジ袋	5,960,555	枚	0.001167	kg/枚	6.96
タマゴパック	4,849	kg	2.632800	CO <sub>2</sub> /t	12.77
プラスチックトレー	2,651	kg	2.632800	CO <sub>2</sub> /t	6.98
製品袋・カタログセット	6,014	kg	2.632800	CO <sub>2</sub> /t	15.83
廃油回収	51,000	L	2.952800	CO <sub>2</sub> /t	150.59
ペットボトルキャップ	2,461	kg	2.632800	CO <sub>2</sub> /t	6.48
				合計	232.33



# 組合員の環境活動トピックス

スポーツと環境活動の融合!

「スポGOMI in おおいた」を開催しました。

3月23日(土)大分市中心部において「スポGOMI in おおいた」を開催しました。

「ゴミ拾いはスポーツだ!」を合言葉に、チームで力を合わせ制限時間内に定められたエリア内でゴミを拾い、その種類と量をポイントに換算して競い合いました。

参加者全員で、楽しい汗をかきました。

●参加者 66名(合計18チーム) ●拾ったゴミの総量 47.5kg





## 親子体験スクールin清川(体験農場)

2009年から行なわれている豊後大野市清川町での体験農場では、1年を通じて、春の部(4月14日(土)～7月14日(土) 参加人数55名)、秋の部(9月1日(土)～11月24日(土) 参加人数48名)の総勢103名の参加がありました。

農業法人(株)夢ファームおおいたの指導のもと組合員が家族で農業体験を行なう体験農場の取り組みを行なっています。農場には店舗から排出される残渣(野菜のくず、魚のアラなど)を堆肥として再生した「エコ堆肥」を使用しており循環型農業の実践につなげています。



## 水生生物観察会

7月24日(火)～8月27日(月)の間に県内4ヵ所で水生生物観察会を開催し、総勢116名の組合員が参加しました。自然豊かな大分県のあちこちの河川や干潟、海や池など水辺には、多くの生き物が生息しています。

水生生物観察会は全体企画や各エリア、コープ委員会の企画として開催し生物多様性や環境について学ぶ機会になっています。





# 地球温暖化防止の取り組みと結果

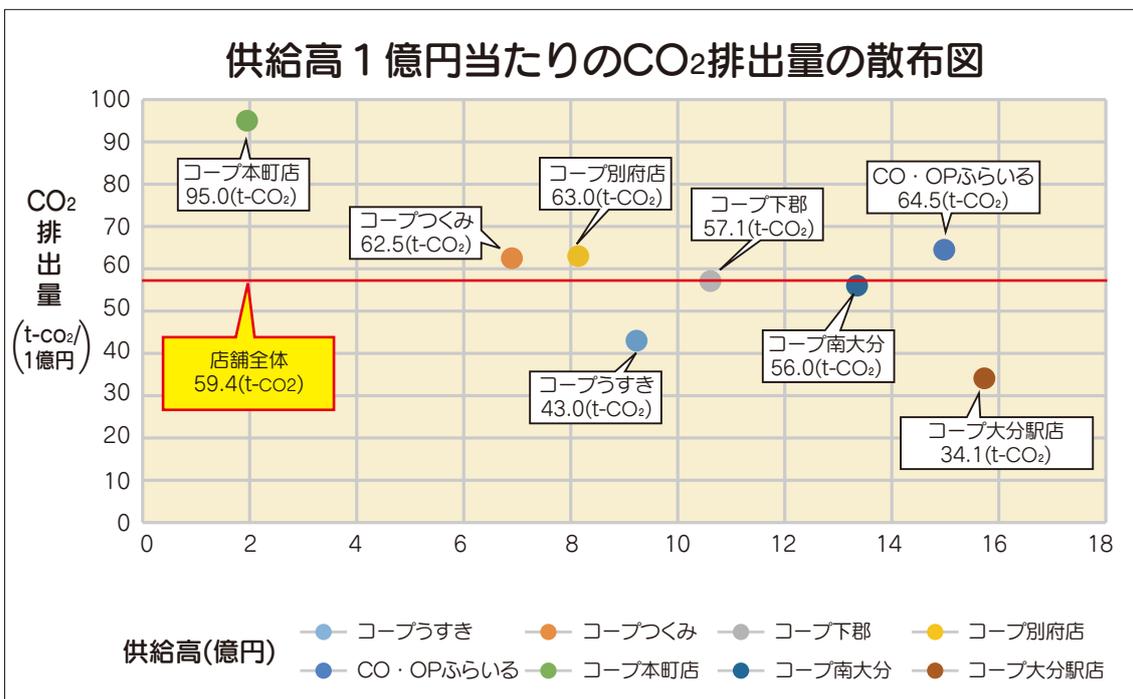
## 地球温暖化防止自主行動計画について

環境方針「各事業所におけるエネルギー（電力、ガス、車輛燃料など）使用の効率を高めて、供給高1億円当りのCO<sub>2</sub>排出量を、定期的に実測把握・検証し、抑制します。」を重点に、事業と環境の連動に取り組みました。

供給高1億円当りのCO<sub>2</sub>排出量は、2017年度対比0.23%削減（総量ベース）、実質で1.46%削減できました。

### ◇2018年度の取り組み結果

	使用量	単位	CO <sub>2</sub> (t-CO <sub>2</sub> )	供給高	供給高当りCO <sub>2</sub>	供給高当りCO <sub>2</sub> (2017年度参考)
電力(九州電力)	4,707,418	kWh	2,180	180.57 (億円)	34.37 (t-CO <sub>2</sub> )	34.45 (t-CO <sub>2</sub> )
電力(PPS)	5,103,712	kWh	2,868			
ガソリン	169,994	ℓ	394			
軽油	262,874	ℓ	678			
灯油	8,512	ℓ	21			
ガス	21,361	m <sup>3</sup>	64			
合計			6,206			
太陽光	686,232	kWh	362	31.08	31.54	
リサイクル	P11参照		232			
削減効果			594			
実質排出			5,611			



# 店舗事業の電気使用量の取り組み (既存店舗とセンター)

## ① 空調・冷蔵室外機高圧洗浄

空調や冷凍・冷蔵ショーケースの室外機には、ごみ・ほこり・カルキ等が付着することにより、吸気効率が悪化し電力負荷が大きくなってしまいます。

(外気を吸い込む場所の目詰まり等を取り除くことで、外気取り込みがスムーズになり、効率が良くなります。)

店舗、センターを年2回のペースで、吸気効率の改善を目的に室外機の洗浄(溶剤使用)を実施し、省エネを実現しました。



## ② 空調・冷蔵室外機への散水噴霧対策

冷蔵庫や空調機の室外機の吸気温度が上昇して効率が低下しております。

室外機熱交換部へ吸気温度の低減を目的とした噴霧装置や散水装置を設置し、大きな省エネ効果を得ました。



## ③ 冷蔵冷凍室外機 ショートサーキット防止対策

冷蔵庫や空調機の室外機の排気(温風)を吸気部分から極力吸い込ませないようにすることで、効率を上げていこうという対策です。

温風排気遮断(防止)板を設置し、暖気の吸込み防止と遮光という省エネ効果を得ました。





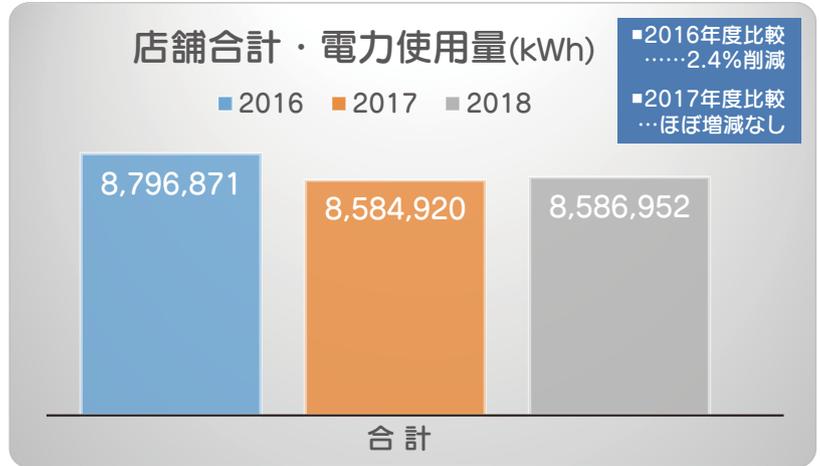
# 店舗事業の電力使用量削減結果

## 店舗別・電気使用量の推移

### 店舗の合計電力使用量の3年間比較

2016年度増加したことを省み、より一層の省エネに取り組み、昨年度と同水準で推移できました。

2016年度比較で2.4%削減できました。

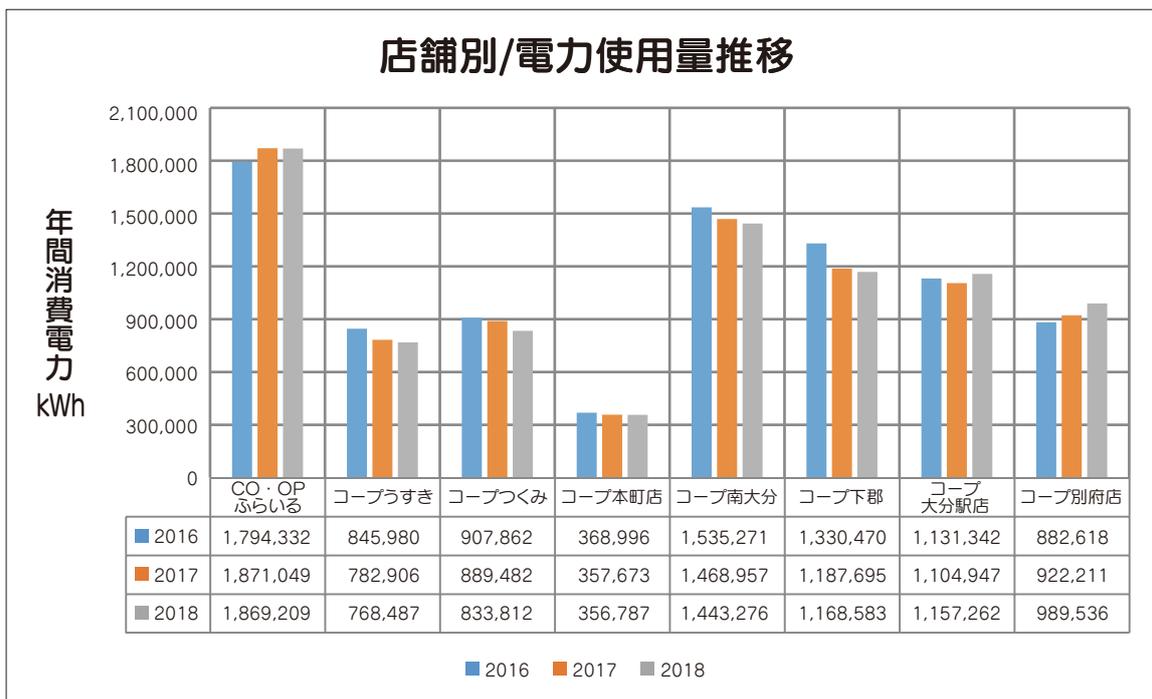


### 店舗の合計電力使用量推移の3年間比較

2017年度対比で、使用量が減少しているのは、「CO・OPふらいる」「コープうすき」「コープつくみ」「コープ本町店」「コープ南大分」「コープ下郡」の6店舗です。

電力使用量の多い、「コープ南大分」・「コープ下郡」の削減が、全体の削減に貢献しているのがわかります。

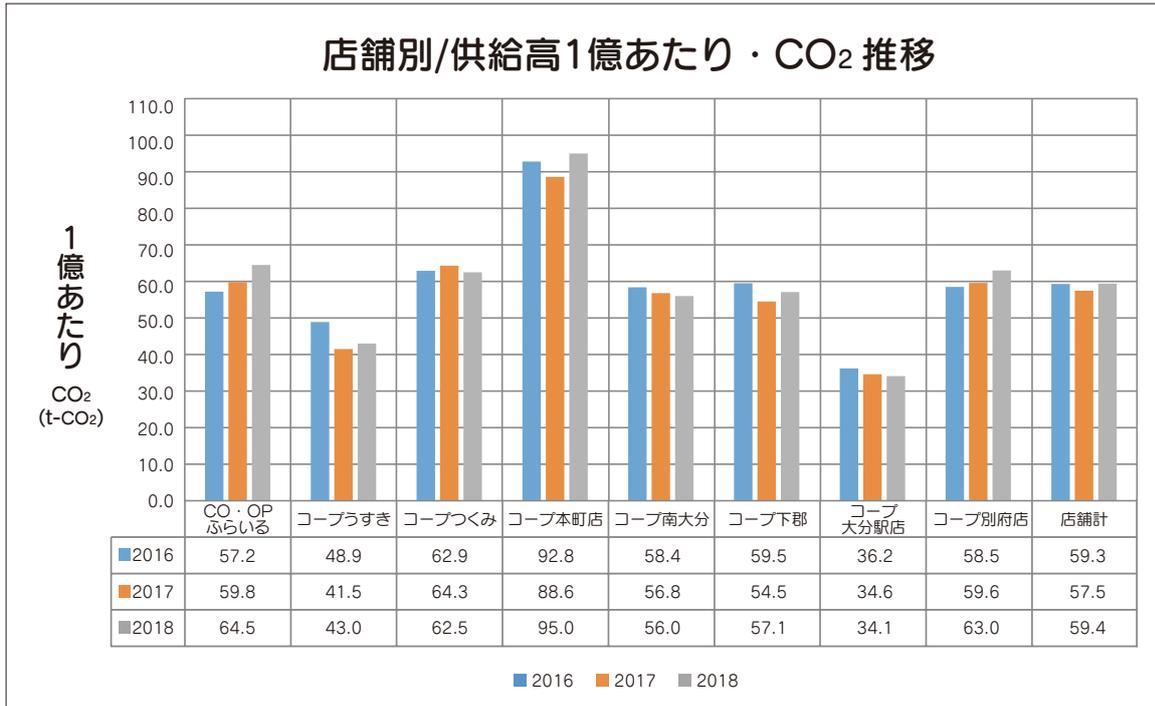
コープつくみは、店内照明をLEDに交換したことの効果が寄与しています。コープうすきは2016年に実施した「店舗リニューアルに伴う省エネ機器導入」の効果を持続させることができました。





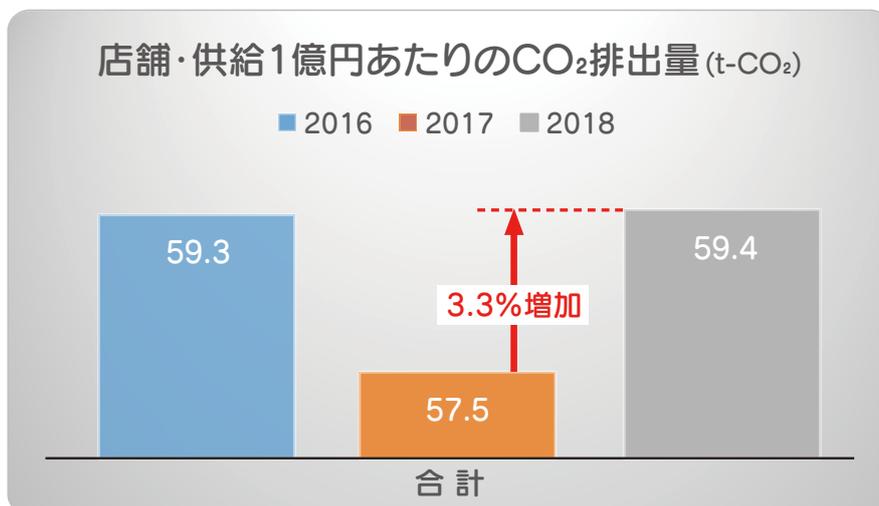
## 店舗別の供給高当たりのCO<sub>2</sub>排出量の推移

コープおおいたの、地球温暖化対策指標として「供給高1億円当たりのCO<sub>2</sub>排出量」の低減を自主活動計画にうたっています。



電力使用量は、2017年度と同様に推移したのですが、供給高との兼ねいで、CO<sub>2</sub>排出量は増加してしまいました。

2019年度は、更なる推進を図り、削減に努めてまいります。



# 燃料使用量削減の取組みと結果報告

削減取組みは、「供給高1億当りのCO<sub>2</sub>排出量」を指標に、推進してまいりました。

取組みの柱である「安全エコドライブ」を業務で運転する職員に徹底すべく、その学習と実践を強めてきました。

結果、供給高1億当りのCO<sub>2</sub>排出量を2.5%削減(2017年度対比)できました。

※畑中センター(個配)の関係で、委託業者(流通サービス)の実績も取り込んでいます。

全体		2016年度		2017年度		2018年度	
		実績	CO <sub>2</sub> (t-CO <sub>2</sub> )	実績	CO <sub>2</sub> (t-CO <sub>2</sub> )	実績	CO <sub>2</sub> (t-CO <sub>2</sub> )
ガソリン(ℓ)	CO <sub>2</sub> 排出量	124,658	289	163,430	379	169,994	394
対前年対比				131.1%	131.1%	104.0%	104.0%
軽油(ℓ)	CO <sub>2</sub> 排出量	287,909	743	275,838	712	262,874	678
対前年対比				96%	96%	95%	95%
LPGガス(m <sup>3</sup> )	CO <sub>2</sub> 排出量	6,075	18	8,800	26	8,909	27
対前年対比				145%	145%	101%	101%
合計	CO <sub>2</sub> 排出量	418,642	1,050	448,068	1,117	441,777	1,099
対前年対比				107.0%	106.4%	98.6%	98.4%
供給高	1億当りCO <sub>2</sub>	180.58	5.82	178.84	6.25	180.56	6.09
対前年対比				99.0%	107.4%	101.0%	97.5%

コプおおいた		2016年度		2017年度		2018年度	
		実績	CO <sub>2</sub> (t-CO <sub>2</sub> )	実績	CO <sub>2</sub> (t-CO <sub>2</sub> )	実績	CO <sub>2</sub> (t-CO <sub>2</sub> )
ガソリン(ℓ)	CO <sub>2</sub> 排出量	98,243	228	116,662	271	122,440	284
対前年対比				118.7%	118.7%	105.0%	105.0%
軽油(ℓ)	CO <sub>2</sub> 排出量	98,286	254	14,282	37	9,075	23
対前年対比				14.5%	14.5%	63.5%	63.5%
合計	CO <sub>2</sub> 排出量	196,529	482	130,944	308	131,515	307
対前年対比				66.6%	63.9%	100.4%	100.0%
供給高(店舗)	1億当りCO <sub>2</sub>	84.30	5.71	81.46	3.77	80.90	3.80
対前年対比				96.6%	66.1%	99.3%	100.7%

コプサービスおおいた		2016年度		2017年度		2018年度	
		実績	CO <sub>2</sub> (t-CO <sub>2</sub> )	実績	CO <sub>2</sub> (t-CO <sub>2</sub> )	実績	CO <sub>2</sub> (t-CO <sub>2</sub> )
ガソリン(ℓ)	CO <sub>2</sub> 排出量	26,415	61	46,768	109	47,554	110
対前年対比				177.1%	177.1%	101.7%	101.7%
軽油(ℓ)	CO <sub>2</sub> 排出量	158,623	409	233,556	603	226,770	585
対前年対比				147%	147%	97%	97%
合計	CO <sub>2</sub> 排出量	185,038	471	280,324	711	274,324	695
対前年対比				151.5%	151.1%	97.9%	97.8%
供給高(宅配)	1億当りCO <sub>2</sub>	81.70	5.76	82.78	8.59	84.95	8.19
対前年対比				101.3%	149.2%	102.6%	95.3%

流通サービス		2016年度		2017年度		2018年度	
		実績	CO <sub>2</sub> (t-CO <sub>2</sub> )	実績	CO <sub>2</sub> (t-CO <sub>2</sub> )	実績	CO <sub>2</sub> (t-CO <sub>2</sub> )
LPGガス(m <sup>3</sup> )	CO <sub>2</sub> 排出量	6,075	18	8,800	26	8,909	27
対前年対比				144.9%	144.9%	101.2%	101.2%
軽油(ℓ)	CO <sub>2</sub> 排出量	31,000	80	28,000	72	27,029	70
対前年対比				90%	90%	97%	97%
合計	排出量	37,075	98	36,800	99	35,938	96
対前年対比				99.3%	100.4%	97.7%	97.8%
供給高(個配)	1億当りCO <sub>2</sub>	14.58	6.74	14.60	6.76	14.71	6.56
対前年対比				100.1%	100.3%	100.8%	97.1%



# 太陽光発電レポート

太陽光発電の発電量は、順調に推移しています。これは、日射量が多いという事もありますが、定期的に行なっている適切なパネルメンテナンスが大きく貢献していると考えられます。

大分県の住宅1戸あたりの電力消費量が(5,486kWh)ですから、総発電量は、125戸分に相当します。

生協として、再生可能エネルギーによる発電という事業を通して、温暖化防止の一助となることを支援していきたいと考えています。

## ◇年間発電実績

単位：kWh

	2016年度	2017年度	2018年度
コープ南大分	209,907	210,168	211,968
コープ下郡	191,628	195,426	189,999
三重センター	55,538	55,246	55,022
宇佐センター	56,118	57,187	58,851
日出センター	55,897	56,705	57,827
コープ別府店	54,565	56,014	57,569
コープうすき	55,658	56,600	54,996
合計	679,311	687,346	686,232



日出センター



宇佐センター



コープ別府店



コープうすき

メモ







## 環境活動報告書

---

発行: 2019年6月

お問合せ: 総務部(☎097-524-0111)

ホームページアドレス <https://www.oita.coop/>